



新年を迎えて

謹賀新年



2022年（令和4年）が幕を開けました。2019年末に新型コロナウイルスの感染者が最初に報告されてから、2年が経過しました。パンデミックと呼ばれる世界的大流行となり、この2年間で私たちの生活や暮らしや行動様式を一変しました。昨年末には、日本での感染者数は大幅に減少し、日本社会は少し落ち着きを取り戻しました。しかしながら、第6波が予測され、感染力が強いとされるオミクロン株の広がりにより予断を許しませんが、世界は着実にwithコロナへと動き始めています。

新年を迎えるにあたり、予測が難しい変化、新たな日常に対して柔軟に適応し、新たな発想で教育活動を進めていきたいと思います。

さて、本校は令和4年4月に開校9年目を迎えます。平成26年開校時に入学した子どもたちが9年生となり、9学年の全児童生徒が東山泉小中学校に入学した子どもたちとなります。本校にとって新たなスタートの1年となります。

「泉のごとく人材を輩出するとともに、子どもたちの心の憩いとなる学校になって欲しい」という願いを込めて選ばれた校名、東山泉・・・」

自分たちの住んでいる「東山」、わがまち「京都」を大切にし、「日本」そして「世界」を舞台に活躍する人になって欲しい、子どもたちの心のよりどころになって欲しいという願いが込められていると思います。

教職員一同、その期待に沿えるように、そして、さらなる進化を遂げられるよう教育活動を推進していきたいと考えております。本年もよろしくお願ひいたします。

今年の干支「壬寅(みずのえとら)」

今年の干支は「壬寅(みずのえとら)」です。

干支といえば寅(トラ)や酉(トリ)など「十二支(じゅうにし)」を思い浮かべる人も多いかもしれません、干支は「十干十二支(じっかんじゅうにし)」を略した言葉です。十干(じっかん)と十二支を合わせたものが干支になります。

「十干」とは、甲(こう:きのえ)、乙(おつ:きのと)、丙(へい:ひのえ)、丁(てい:ひのと)、戊(ぼ:つちのえ)、己(き:つちのと)、庚(こう:かのえ)、辛(しん:かのと)、壬(じん:みずのえ)、癸(き:みずのと)の総称で、もとは1から10までのものを数えるための言葉です。

「十二支」は、子(ね:ねずみ)、丑(うし)、寅(とら)、卯(う:うさぎ)、辰(たつ)、巳(み:へび)、午(うま)、未(ひつじ)、申(さる)、酉(とり)、戌(いぬ)、亥(い:いのしし)と、その年を12種類の動物になぞらえたもので、年の他にも時刻や方角を表すことがあります。

令和4年は十二支でいうと「寅」、十干では「壬」となり、干支は「壬寅(みずのえとら)」となります。トラは勇敢さの象徴であり、決断力の高さや才覚のある様子を表しています。

「壬」は、厳しい冬の寒さに耐えて次の代の基礎を固めている様子を表し、次の命を育むための準備をする時期といえます。「寅」は、春の胎動の様子を表し、新しい生命の誕生の時期といえます。冬が厳しければ厳しいほど、力強い新しい生命の誕生を予感させてくれるのが、「壬寅」の組み合わせといえます。新型コロナウイルスが収束し、コロナ禍の自粛生活から生まれた新しい生活様式に期待が持てる1年、そして、みなさんにとて飛躍の1年になることを願います。



寅

新年の目標

児童生徒のみなさん、今年の目標は決まったでしょうか。「将来こんな自分になりたいから今年はこんなことをがんばる。」「今年はこんなことができるようになりたい。」そのようなことを考えながら、自分の目標を立ててほしいと思います。

大切なのは、その目標をもとに、今、何をすればいいのかしっかりとと考え、行動を起こすことです。目標はそれに向かって行動を起こしてこそ意味があります。大きな目標は、小さなステップに分けると行動しやすくなります。目標が具体的であればあるほど目標達成に向けてがんばりやすくなります。自分の目標をより達成しやすいように具体的な行動目標を立ててみてください。

目標を決めて努力することは、とても大切だということを知ってもらうために、一つの言葉を紹介します。(2学期の終業式で紹介した言葉です。)

心が変われば 行動が変わる。
行動が変われば 習慣が変わる。
習慣が変われば 人格が変わる。
人格が変われば 運命が変わる。

これはアメリカの心理学者「ウィリアム・ジェームズ」の名言として有名な言葉です。新しい年にしっかりとこれからのことを考えて目標を立てることで心が変わります。心が変われば今までと起こす行動が変わります。行動の積み重ねが習慣であり、習慣が変われば人格が変わります。人格が変われば運命が変わり、人生が変わります。このように、自分が決めた目標に向かって行動を起こせば、自分の人生もえることができます。まずは、1年の最初に決めた目標に向けて、行動を起こすことからスタートです。

授業時数特例校制度

(令和4年度 文部科学省指定)

令和4年度、第8学年において、地域の寺院「泉涌寺」が舞台となった能「舍利」を題材に、能の歴史や由来を学び、鑑賞する学習を経て、「舍利」の謡の一節を習得し、「東山泉版大連吟『舍利』」として披露する学習活動を行います。さらに、「みんなで『舍利』を謡おう！」プロジェクトとして、オリジナルの謡本やプロジェクト動画の作成を行い、「能」の魅力を学校・地域に広めることを通して、伝統や文化を理解したうえで、その継承・発展に主体的に関わる態度を育成していきます。

この学習活動は、学校や地域の実態に照らして、より効果的な教育を実施するための文部科学省の特例制度（教科ごとの授業時数を弾力的に編成することを認める制度）を活用し、特別の教育課程を編成して取り組む予定です（現在申請中）。具体的には、音楽科の授業が例年より増えることになります。また、夢創（総合的な学習の時間）等と関連付けも図ります。

教科横断的な視点にたった資質・能力の育成や探究的な学習の充実を目的に、「伝統文化教育」を切り口として、本校が育成を目指す資質・能力である「社会と自分との繋がりを考えながら、学び続ける力」を育成するため、現在、京都市教育委員会と協議しながら全体像を検討しています。詳細につきましては、今後、学校だよりにてお知らせしてまいります。

【保護者・地域のみなさまへ】

6日(木)から3学期がスタートしました。保護者、地域の皆様におかれましては、寒さが厳しくなってまいりますが、放課後学び教室、登校時の見守りなど、今年もよろしくお願ひいたします。